



平成 29 年 1 月 20 日

会 報 第 5 号

会津「The13」事業協議会 第4回 講演会・検討委員会、報告会

発行：会津「The13」事業協議会

事務局 〒965-0873 福島県会津若松市追手町 5 番 36 号

TEL 0242-29-1910 FAX0242-29-5916 E-mail g-ryohei@adoken.co.jp

この号の内容

- 1 開催日
 - 2 あいさつ
 - 3 事業経過報告
 - 4 講演会
演題「森林資源活用における ICT の可能性」
会津大学
産学イノベーションセンター
教授 石橋 史朗 氏
 - 5 検討委員会
テーマ「川下 (CLT 需要、エネルギー需要等) の課題解決策の検討」
アルファフォーラム
代表取締役社長 小林 靖尚 氏
 - 6 報告会
検討結果報告
アルファフォーラム
代表取締役社長 小林 靖尚 氏
- 1 開催日
 1. 日時：平成 29 年 1 月 17 日 (火) 13:00～17:00
 2. 場所：会津大学
会津大学先端 ICT ラボ (通称：LICTiA) 2F カンファレンススペース
会津若松市一箕町鶴賀字上居合 90 TEL:0242-37-2500
 2. あいさつ
 4. 事業経過報告
 5. 講演会
演題「森林資源活用における ICT の可能性」
会津大学 産学イノベーションセンター 教授 石橋 史朗 氏
 6. 検討委員会
テーマ「川下 (CLT 需要、エネルギー需要等) の課題解決策の検討」
13 市町村で取り組む事業の特徴と ICT 活用の可能性について
アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏
 7. 報告会
検討結果報告 アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏
 8. 事務局より

2 あいさつ

1. 唐橋理事長の挨拶



次回スケジュール

会津創生シンポジウム

日時:平成 29 年 2 月 8 日(水)

場所:会津大学 講堂

内容

記念講演:演題「プラチナ社会における

森林資源のフル活用」

プラチナ構想ネットワーク

会長 小宮山 宏 氏

(三菱総合研究所理事長、

国立大学法人東京大学

第 28 代総長)

パネルディスカッション

テーマ

「地域循環経済の基礎となる森林

資源フル活用プロジェクトの意義」

パネラー

経済産業省 産業技術環境局

局長 末松 広行 氏

東京大学 名誉教授 有馬 孝禮 氏

福島県企画調整部政策監

兼企画推進室長 櫻井 泰典 氏

オーストリア大使館商務部

上席商務官ルイジ・フィノキアーロ 氏

銘建工業㈱

代表取締役 中島 浩一郎氏

内閣府地域活性化伝道師

菅家 洋一 氏

(会津「The13」事業協議会副理事長)

コーディネーター

エグゼクティブ・プロデューサー

福留 功男 氏

(福島県しゃくなげ大使)



サポート事業最終章である第 4 回 講演会・検討委員会、報告会開催に際し、委員、準会員、行政、一般来場者で約 80 名のご参加をいただきました事、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

3 事業経過報告



会津「The13」事業協議会の活動は、全国でも稀有なプロジェクトであり、国の各省庁でも注目をしているとの事で、地域創生の成功モデルとして成功させなければいけない。検討課題のひとつである CLT 用ラミナ供給事業においても、福島県で実施する災害公営住宅(復興住宅)へ CLT 導入決定し、全国で 1 番の使用量となる CLT 先進地である旨の説明があり、ラミナ供給事業の将来性を確認することができた。

最後に、平成 28 年度 活動総まとめとして 2 月 8 日に開催する「会津創生シンポジウム」開催の案内があった。

4 勉強会



演題 「森林資源活用における ICT の可能性」

会津大学 産学イノベーションセンター 教授 石橋 史朗 氏

近年の ICT におけるトレンドを、ハードの目覚ましい発達期から膨大な情報(ビッグデータ)、クラウドの運用、そしてメディアにおいて取り上げられる機会の多い IoT、AI(人工知能)にいたるまで詳細にご講演いただき、我々の益々身近なものになりつつある ICT と、採算性が悪い林業を結び付けることで、川上～川中～川下まで総合的なデータ管理・運用による高効率、高収益な体制構築が可能であるかを実感した。

5 検討委員会

1. 検討委員会



テーマ「川下(CLT 需要、エネルギー需要等)の課題解決策の検討」

13 市町村で取り組む事業の特徴と ICT 活用の可能性について

アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏

川下(CLT 需要、エネルギー需要等)の説明に当たり、

1. 木材利用スケール確認
2. 木質材料のカスケード利用
3. CLT 製造コスト検討
4. ボイラシステムの設計フロー
5. 総事業経費に占める木質チップの割合
6. ICT 活用範囲:F2 エナジー(株) 代表取締役 高城 玲奈 氏 説明・システム説明

現状、川上/川中/川下はバラバラで動いているので、燃料が安定的に供給できない、ボイラが停止した時の原因が特定できない等の問題があるので、本システムでは、生産量/コスト/収支の全体情報を収集し判断材料を提供する。

実際、福井のボイラ稼動状況を遠隔で表示し、その実用性の高さを実証した。

7. 西会津町での導入検討例

の7項目を業務の流れとともに問題を提起しその解決策を説明した。



補足説明をされている F2 エナジー(株) 代表取締役 高城 玲奈 氏

6 報告会 検討結果報告

本年度の検討結果まとめとして、アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏より説明があった。

○検討結果概略

- ・13 市町村には千葉県よりも多い森林があり、無駄なく木すべてを利用し、利益を追求する事業にしていく。

○分散型エネルギーインフラの概略

- ・既存の重油ボイラをバイオマスボイラに代替していく。
- ・川上～川下すべて繋げることで、各部門に適正な利益を落としていきたい。
- ・13 市町村が結託して行えば、他に負ける事のない事業となるはず。

○インフラ整備による木材流通規模イメージ

- ・規模感は山から見て丸太消費 25 万 m³
- ・この規模から掛け算で事業は拡大していくという事が分かった。

○福島有三極連携事業のカギは会津にあり

- ・木材コンビナートの場所は現在検討中。森林業は輸送コストがネックとなるので、13 市町村でアクセスの良い場所が想定される。
- ・CLT リサーチ & デザインセンターは現在いわき市南部か大熊町を検討している。

○会津「The13」の森林資源フル活用事業の特徴

- ・電気よりも熱→1%でも多く木を利用する。小さなコスト削減がこの事業ではとても重要。
- ・複雑よりも単純→単純な設備だが、予期せぬことで止まってしまう事は前例で理解している。しっかりとその対応方法について考える。
- ・この事業は補助金を貰うのが目的では決していない。その先を見据えており、会津地域で自立した事業となるように考え込んで計画している。
- ・需要に合わせて・・・ではなく、川上(山側)に合わせて需要デザインを作る。

○会津「The13」事業協議会の課題解決型プロジェクト

- ・森林簿・森林台帳は実際の森林と差異がある事が分かった。起点である山がしっかりしていないと、後の工程で正確な数字を出せなくなってくる。補助金を貰ってでも 13 市町村の山を詳細に調べる必要がある。
- ・一般の方には木の事がわからないことが多い。木を切ってはいけないのでは？と思う人も沢山いるので、地域を巻き込んでこの事業を通して、森林について知ってもらいたい。

○おわりに

- ・観光と融合させる。
真庭市では銘建工業さん見学の為、年間約 6,000 人が宿泊している。地元地域にそれだけのお金が落ちている。この事業でも同じようなことが想定されるので、街が活性化することは間違いないと思っている。
- ・この事業では常に考えることはもちろんだが、常に行動をし続けることが必要。

本検討委員会のまとめとして上記内容が提起され、来年度へ向けた活動方針が示された。

7 事務局より 会津創生シンポジウム開催について

事務局より下記日程にて開催する会津創生シンポジウムの説明があった。

1. 日時:平成 29 年 2 月 8 日(水)13:15～16:30
2. 場所:会津大学 講堂
3. 記念講演:演題「プラチナ社会における森林資源のフル活用」
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 氏
(三菱総合研究所理事長 国立大学法人東京大学 第 28 代総長)
4. パネルディスカッション
テーマ「地域循環経済の基礎となる
森林資源フル活用プロジェクトの意義」

パネリスト

経済産業省 産業技術環境局 局長	末松 広行 氏
東京大学 名誉教授	有馬 孝禮 氏
福島県企画調整部政策監兼企画推進室長	櫻井 泰典 氏
オーストリア大使館商務部上席商務官	ルイジ・フィノキアーロ 氏
銘建工業(株) 代表取締役	中島 浩一郎 氏
内閣府地域活性化伝道師	菅家 洋一 氏
(会津「The13」事業協議会 副理事長)	

コーディネーター

エグゼクティブ・プロデューサー	福留 功男 氏 (福島県しゃくなげ大使)
-----------------	-------------------------

以 上

会津「The13」事業協議会

第4回 講演会・検討委員会、報告会（実施日：平成29年1月17日）

福島民報新聞

平成29年1月20日掲載

林業分野 ICTどう活用？

先進事例に可能性探る

会津「The13」
事業協議会

ICTの活用方法について語る石橋教授



会津地方十三市町村の商工会議所、商工会、企業などをつくる「会津『The13』事業協議会」は十七日、会津若松市の会津大先端ICTラボで最終回となる第四回講演会・検討委員会を開いた。林業への情報通信技術（ICT）活用の可能性などについて学んだ。

会津地方十三市町村の商工会議所、商工会、企業などをつくる「会津『The13』事業協議会」は十七日、会津若松市の会津大先端ICTラボで最終回となる第四回講演会・検討委員会を開いた。林業への情報通信技術（ICT）活用の可能性などについて学んだ。

いさつし、菅家洋一副理事長が事業経過報告をした。会津大産学イノベーションセンターの石橋史朗教授が「森林資源活用におけるICTの可能性」と題し講演した。先進地事例を示しながら、ICTを活用した森林や林道の管理方法を紹介した。検討委員会ではアルファフォーラムの小林靖尚社長が「川下」と呼ばれる木材の需要、活用先について紹介した。協議会は二月八日に会津大で、今後の方針などを探るシンポジウムを開催する予定。

引き続き、報告会が催された。森林資源の有効活用にはCLT工場と木材（ラミナ）製造工場を合わせて建設する必要があるという考え方を確認した。

森林資源の活用策探る

会津「The13」事業協議会

会津地方13市町村の豊かな森林資源をフルに活用し、新しい建築用材CLT（直交集成板）の生産支援や木質バイオマス熱供給事業の創出を目指すため昨年7月に発足した会津「The13」事業協議会（理

事長・唐橋幸市郎会津喜多方商工会議所会頭）は17日、会津若松市の会津大先端ICTラボで最終回となる第4回講演会・検討委員会を開いた。終了後の報告会では、取り組みが地域循環経済や里山復活の基礎



をつくるとして、産官学とも連携し引き続き森林資源

▲ 森林資源活用の可能性を
探った講演会

活用の道を探ることとした。

勉強会の位置付けで開催しており、約80人が出席。唐橋理事長のあいさつ、菅家洋一副理事長の事業経過報告に続き、石橋史朗会津大産学イノベーションセンター教授が「森林資源活用におけるICT（情報通信

技術）の可能性」と題して講演した。

続く検討委員会では森林資源活用を川の流れに例えて「川下（CLT需要、エネルギー需要など）の課題解決策の検討」をテーマにICT活用の可能性などを探った。

同協議会は今後の取り組みの方向性を探るシンポジウムを2月8日に会津大講堂で開く予定。



13 市町村共創で
の森林資源活用を
求める菅家副理事
長

プロジェクトマ
スタープラン作成に
ついて「13 市町村
一緒だからこそで
きる事業」と述べ、
首長はじめ、参加

会津「The13」事業
協議会（理事長＝唐橋幸
市郎、会津喜多方商工会議
所会頭）は17日、会津若
松市の会津大学先端IC
トラボで第4回講演会・
検討委員会を開いた。協
議会は森林活用による循
環型地域経済構築を目指
しており、事業化する場
合、木材利用規模が年間

で約20～25万立方尺であ
ることを再確認した。
唐橋理事長のあいさつ
に続き、副理事長の菅家
洋一、副理事長の菅家
市町村の共創事業であ
る。低炭素社会のモ
デル地域にもなる」とし、
会津13市町村が進める分
散型エネルギーインフラ

した自治体関係者にも賛
同を求めた。
13 市町村管内の木材利
用は年間約7万立方尺と
言われており、事業化に
はこれの約3倍規模の木
材が必要となる。20万立
方尺のうち上材をCLT
として約5万立方尺搬
出、残る15万立方尺を燃
料として活用する案を示

会津The13

木材利
用規模

年間20～25万³m見込む

共創で森林資源活用

同協議会は、会津13市
町村が進める分散型エネ
ルギーインフラプロジェ
クトと連動し、事業とし
て会津地方の豊富な森林
資源を活用した循環型地
域経済構築を目指してい
る。検討委員会は今回が
最終回。2月上旬にはシ
ンポジウムを開き、森林
活用の気運を高める。

している。
マスタープラン策定支
援業務を担当するアルフ
アフォーラムの小林靖尚
社長がCLT需要や事業
化までの課題解決につい
て説明し、木材流通や、
ラミナ製材工場イメージ
も紹介した。工場は約11
～12畝の敷地にライン工
場、チップ工場、バイオ
マス発電設備などを配置
する案を想定している。